

月刊

# さわやか

第32号

平成21年12月15日

《発行》

(社) 日野市シルバー

人材センター

日野市日野本町2-4-7

0421581-8171

## 会員数

平成21年10月31日

1,691名

男性 1,294名

女性 397名

入会者数

10月 28名

(男18名、女10名)

但し、退会者 12名

## 日野市産業まつりで 当センターPR活動

### 中央テントに初出店

### 切り花・鉢植え販売、 チラシ配布、パネル展示

11月14、15両日(土、日)に開催された日野市産業まつりで、当センターは初めて中央舞台前のテント群の一角に出店し、切り花・鉢植えの販売、チラシの配布、パネル展示等によりセンターPR活動をおこないました。

これには池田事務局長をはじめ事務局、総務部会、広報部会から両日でのべ14名が参加。北村会長も両日顔を見せました。テント内はバス、ポインセチア、



当センターのテント前でチラシ配布

シクラメン、ゴールドクレスト、金魚草等々が色鮮やかに並び、周囲にシルバー会員の活動を紹介する写真パネル。その前で、会員募集チラシとセンター名入りティッシュのセツト袋を配りました。

初日はあいにく雨模様でしたが翌日は好天に恵まれ、切り花鉢植えは完売。チラシ・セツトも用意した1300組を早々に配り終えました。受け取った来客の中には「どんな仕事があるの?」「入会

するにはどうすればいいの?」と質問する方が何人もいました。

## 2009フェア・エイト

### 基調講演、ネイルアート等

多摩地域8市のシルバー人材センター(SCC)で構成する第七ブロックの催し「フェア・エイト」(3面それぞれ)が11月20日、八王子市の子安市民センターでおこなわれました。

午前9時半から始まった開会式では、主催市SCC等の関係者挨拶の中で、第七ブロック幹事市SCCである当センターの安藤副会長も挨拶しました。

続いて基調講演に移り、ホールファミリーケア協会事務局長の山田豊吉氏が「高齢社会における人との関わり方 傾聴」について学ばせると題して、高齢者の話を聞いてあげる「傾聴」の大切さを弁舌巧みに語りました。

午後の主要イベントは会員発表

会、ネイルアート体験、転倒予防体操等でそれぞれ当センターからも代表者が参加しました。とくに会員発表会は女性会員によるディスプレイで、各SCC3名、計24名が2班に分かれて、女性会員の諸問題を話し合いました。

(3面に関連記事)

## 植木班が安全運転講習

### クラッチ操作、発進等を実習

当センター植木班の自動車安全運転講習会が11月8日、多摩コースでおこなわれ、15名が参加。とくにクラッチ操作の講義を受け、多摩コースの教官が同乗し、坂道発進等を実習しました。最後に、個人個人の評価を指摘され、受講者は納得の表情を浮かべていました。

## 12月の就業報告書は 1月5日までに

12月の就業報告書は遅くとも年明け5日までに、事務局に届けてください。12月29日、1月3日は事務局が休みですので、この間は駐車場入口の赤いポストに投函してください。

# 日野市行政評価システム センター事業の市民評価が向上

今年度の日野市行政評価システム  
の市民評価報告書が、このほど  
発表されました。平成20年度  
の51事務事業を評価したもので、  
「日野市シルバ人材センター運  
営費の補助」に対する評価も高く  
まれています。

つまり、市の事業としてシルバ  
人材センターの運営補助するこ  
との問題点を検証するもので、  
当センターの活動そのものの評価  
が行われました。

今回の市民評価によると、補  
助金に頼らない運営体制の構築  
に關し、「まだまだ大幅な改善の  
余地がある」としながらも、「昨年  
(平成19年)より工夫(新規事業  
の開拓、人件費の削減等)が見ら  
れる」と指摘されています。

この点について前回の評価は抜  
本的見直しでしたが、今回は維  
持・継続となり、市民評価の向  
上が伺えます。

しかし、今回の市民評価は改善  
点として、経験知を活用した創  
造的な事業活動を通じて自立し  
た運営体制を構築するために、

引き続き経費削減、事業の効率  
を図ってもらいたい。さらに、シル  
バ人材センター当局はもとより  
会員の徹底した意識改革が必要  
と考える」と指摘しています。

市民評価とは、市民が参加する市  
民評価委員会(平成17年度より設置)  
が市民目線で市の事務事業を検証す  
るもの

## 就業期限確認書交付式

### 市民への対応に十分注意を

センター会議室で12月7日、来  
年1月4日より就業開始の公共  
部門19カ所29名を対象に、就業  
期限確認書の交付式がおこなわ  
れました。まず北村会長が挨拶し、  
次いで就業者を代表して菅原嘉  
雄氏が北村会長より確認書を受  
け取りました。

続いて池田事務局長が挨拶で、  
シルバの就業者に対する市民の  
評価は大変厳しい状況なので、市  
民が対象となる公共部門の就業  
者が仕事に向かふときは態度に  
十分注意を払って欲しい」と強調  
しました。

(吉本)

「互助会的」事業への補  
助金打ち切りに、「理解・  
ご協力をお願いします」

長引く景気低迷において、官民  
ともその疲弊は想像以上に大きい  
ものとなっています。そんな背景  
から平成22年度においては、日野  
市からの補助金も大幅な削減が  
予想され、センターにおいては緊  
縮な財政運営が余儀なくされま  
す。

については、バス旅行におけるバス  
代の補助、会員に対する弔慰金  
事業等を打ち切る方向と考えて  
います。会員皆様のご理解とご協  
力をお願いします。(事務局)



交付式で挨拶する池田事務局長

## 理事会二ニュース

第9回理事会 10月30日

審議事項 正会員の入会  
就業規約の一部改定について  
報告事項 行政刷新会議「事  
業仕分け」第2WG評価コメン  
トについて、平成21年度一般  
会計予算執行状況に付いて  
10月事業実績、各専門部  
会安全管理委員会の活動報  
告

## 「センター」行事日程

12月14日(月)ブロック・リー  
ダー会議 〓 センター会議室  
1月14日(木)地域班長会議  
〓 生活・保健センター

12月10日、役員・地域班長合  
同研修 〓 立川政府倉庫で食品  
表示の意義、政府倉庫の役割  
について説明を受け、倉庫内備  
蓄状況を見学。

## 配分金の支払日

- 12月18日(金)
- 1月20日(水)
- 2月19日(金)
- 3月19日(金)
- 4月20日(火)
- 5月20日(木)
- 6月18日(金)



# 女性会員の活動・就業状況など

## フェア・エイト会員発表会で意見交換

今回のフェア・エイト会員発表会は女性会員による意見交換会で、当センターからは渡辺由紀子理事、渋谷善子理事、吉本清美広報部会員の3名が参加しました。こつした催しは、第七ブロックではさる6月26日に府中市で行われた女性会員研修会（本紙第27、28号で報道）に続くものです。前回は「女性会員就業の推進」がテーマでしたが、今回は特定のテーマは設けず、ベテラン会員や、入会してまだ日の浅い会員がフラシクな雰囲気です話し合いました。

2班に分かれての討議を総合しますと、個人の就業体験や女性部会、職群班などでの活動の経験、そこの苦勞や悩みが多く出されました。

就業体験では主に家事援助の話が出ました。仕事の範囲とこまでやるか（がよく分からないとか、依頼主は日頃の不平・不満の聞き役を求めているよつだ」といった現場の悩みや声。また、とくに「コーディーターの必要性が強調されました。他方、子育て支援では苦勞が多いようです。

[参考資料] 第七ブロックの女性会員

SC名	会員数	女性会員	比率
八王子市	1,969名	378名	19.2%
府中市	1,786名	496名	27.8%
調布市	1,414名	458名	32.4%
町田市	3,299名	854名	25.9%
日野市	1,593名	369名	23.2%
狛江市	605名	177名	29.3%
多摩市	870名	214名	24.6%
稲城市	595名	190名	31.9%

(H21.3.31現在)



女性会員による会員発表会

注目された事例では、刃物研ぎの受付をしていた人が着付け教室の先生を始めたり、絵手紙の特殊技能を生かして教室を立ち上げたケースもありました。

また、調布市では市バスの中でSC会員の募集を音声で流していることが紹介され、一同の関心を集めていました。(渋谷、吉本)

### 「コーディネート、新坂下団地で包丁研ぎ営業」

12月6日午後、前日の雨が一転澄み切った空の下、7回目となる包丁研ぎグループの営業が新坂下住宅(250戸)の集会所前で同グループ3名と田村理事の支援により実施されました。事務局から池田局長、半田局長代理も顔を見せ、アドバイスをしていました。

事前に団地全戸にチラシを配布、各棟にポスターを張るなどの宣伝効果があつてか、開始時刻前に10数本の依頼があり、3名は手を休めず作業に追われていました。この日は計50本ほどの依頼がありました。

これに先立って10月25日には「コーディネート(707戸)で営業をおこないました。(吉本)



新坂下団地での包丁研ぎ営業

それってなに？

### フェア・エイト

多摩地域8市(八王子、府中、調布、町田、日野、狛江市、多摩、稲城、市政施行順)のシルバー人材センター(SC)で構成する東京第七ブロックの祭典。地域の皆様への感謝、センター事業のPR、各SC会員の交流を目的として、毎年開催されます。開催地は各SCの持ち回りで、昨年は日野市、今年は八王子市でした。内容は開会式、基調講演、会員発表会のほか、主催者独自の各種イベントがあります。

### 長野県 岡谷下諏訪広域SC代表団が来訪 総勢20名 当センターの安全就業等を視察研修

12月4日、長野県の岡谷下諏訪広域シルバー人材センター（SC）から小平徳次理事長以下20名（うち女性3人）の方たちが、当センターの安全就業、適正就業について視察研修に来られました。北村会長と池田常務理事の挨拶に続いて、安全就業について橋本理事、安全管理委員長が説明。飯森副委員長のプロジェクト操作の連携プレイで、ユーモアを交えながらのお話となりました。

安全対策の工夫、声かけ運動、作業前の準備などをスクリーンで見ながらメモをとる方も多く、小平理事長をはじめ数名の方から質問があり、橋本理事のほか北村会長も応答しました。

とくに事故情報の共有化（安全就業ニュースや月刊さわやかで全会員に告知）が安全対策の第一歩であること、テレフォンサービスや月刊さわやか『折り込み』による就業情報の提供などについて説明しました。

適正就業については、半田事務局長代理が説明しました。

最後に、先方の嶋田十三男副理事長から、「事故を防ぐための勉強の成果がありました」との挨拶がありました。このあと、一行は、バスでリサイクル事務所の視察に向かいました。（渋谷）



訪問団の皆さん。右端は橋本理事

### フェア エイトで転倒予防 体操 地域班長4名が参加

11月20日おこなわれたフェア・エイト（企画参照）の主要イベントの一つ「転倒予防体操」には各SCから4名、計32名が参加。当センターから次の4名の地域班長さんが参加しました（50音順）。伊藤義視氏（兼豊田班）、今泉孝一氏（西平山班）、高木計宏氏（平山1班）、中島宏司氏（兼平山班）。

イベントの「体操」は、高齢者に多い転倒事故を予防するための企画で、東京しごと財団が先生（インストラクター）を派遣。腸腰筋、大腿部前面の筋肉、前脛骨筋を鍛える体操や、開眼片立ち、足指力のテストをしました。

参加した高木さんは「時間ひつしりの体操で疲れたが、転倒防止のためつま先を鍛える体操は役に立ちます」と語っていました。

### 第2回全地域班一斉清掃

### 参加者は計482名

さる10月18日の今年度第2回全地域班一斉清掃の参加者は計482名となり、第1回（7月19日）より64名増えました。

### お元気ですか

広報部会から、当センターの方針・情報伝達紙として『月刊さわやか』、また会員の交流誌として年2回『シルバーひの』を発行しています。シルバー人材センターを理解していただいたり、自分のまわりにこんな仕事をしている人が、こんな活動や趣味を楽しんでいる人がいるのだと関心をもって読んでもらえたら、と思います。

多くの方の協力があつてこそ、の情報紙・会報誌です。班長さんが届けてくれるのを楽しみに待つていて、3回ぐらいいは読むという方もいます。広報部会員としては大変嬉しいことです。

一人でも多くの会員さんに関心をもつていただけるよう編集や取材に努力していますので、皆様のご意見や感想、投稿などをお待ちしております。そうしたらお声には、可能な限りお応えするように心がけてもおります。

また、広報部会は編集活動だけでなく、センターのPR活動をイベント会場や駅近辺など各所でしています。見かけたらお声をかけて下さい。（渋谷 善子）

〔平成21年度安全標語佳作〕

声かけが 事故ゼロ目指す 第一歩 今泉孝一（西平山班）